

日本顔学会とは？

■従来の枠組みを超えたネットワークの創造

1995年3月、顔に関する研究の発展を期し、あわせて「顔学」の普及を図ることを目的に、顔の研究者、顔の研究に興味がある人が結集して、日本顔学会が発足しました。発足後5年の間に、国立科学博物館を中心とした大「顔」展を企画するなど、世界的に見ても類のない、新しいかたちの学会の活動が新たな波紋を社会に投じています。

■いま、なぜ顔学か？ ～個性の尊重、細分化から統合へ～

日本顔学会が設立された背景には、

1. 社会における顔に対する意識の変化があるでしょう。個性を尊重する時代に、一人一人を区別できる顔はますます重要な意味を持ってきます。さらにはその人の内面が表に出る部分としても顔は欠かせなくなっています。
2. 従来の専門化・細分化してきた研究の流れとは逆の、統合化・総合化の動きとしてとらえることができます。

統合化の中心はコンピュータグラフィックスを始めとするコンピュータの発達と普及です。コンピュータ技術が多様な分野を結び付ける接着剤の役割を果たしています。

このように見てくると、時代が顔学会を作ったという表現も成り立つでしょう。

■多彩な活動を支える会員が運動体に！ ～研究と情報交流の場作りが不可欠～



▲フォーラム顔学96 (第1回日本顔学会大会)
(1996年8月31日～9月1日開催)

顔に関連した分野の研究発表の場として1991年に始まったワークショップは、1996年より「フォーラム顔学」と名称を変え、学術大会として夏から秋にかけて

開催されています。あわせて、2001年には「日本顔学会誌」も創刊されました。また、年数回開催されている「イブニングセミナー」は、毎回多数の参加を頂いております。「ニューズレター」も年3回のペースで発行しています。

これに加えて、日本顔学会には支部および公認サークルの制度があります。現在、鹿児島支部、中部支部、関西支部が設置されています。公認サークルは、学会員の自主的な活動を支援するためのもので、若手交流会と美人画研究会が活発に活動しています。

今後も、学会活動の案内や報告をはじめとして、会員の皆様の声を取り入れながら、ビビッドな情報をお届けしていきます。



▲日本顔学会誌第1号
(2001年9月発行)



▲ニューズレター第1号
(1996年3月1日発行)

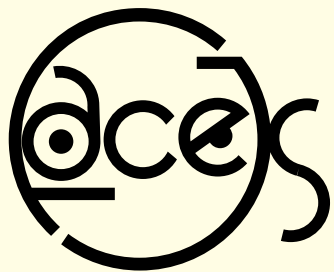
■1999年に「大顔展」を開催、 そして2015年に「顔の百科事典」を刊行

日本顔学会が1995年に発足したとき、それは人相学の学会と間違われました。顔学はそうではなく、顔を科学の対象として扱うことを目的としていたのですが、なかなか理解していただけませんでした。そこでまずは、顔学の面白さを社会にアピールしたいということで計画されたのが、



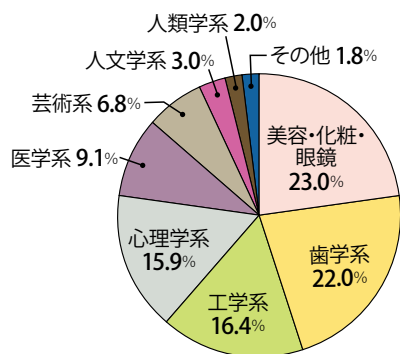
1999年夏から秋にかけて東京上野の国立科学博物館で開催された「大顔展」です。一般入場者は約28万人。誕生したばかりの弱小学会が企画した壮大な研究発表会でした。この大顔展は、その後名古屋、札幌、福岡でも開催されました。

そして2015年に日本顔学会創立20周年を記念して、「顔の百科事典」(丸善出版)が刊行されました。日本顔学会20年の活動の集大成です。顔学にはさまざまな学問分野が関係しています。まさに顔学は「百科」なのです。百科事典は英語ではEncyclopediaですが、啓蒙思想家の西周(にしあまね)は、明治の初頭にこれを「百学連環」と訳したと言われています。百学がばらばらでなく、互いに連環する。まさにそこに顔学の醍醐味があります。



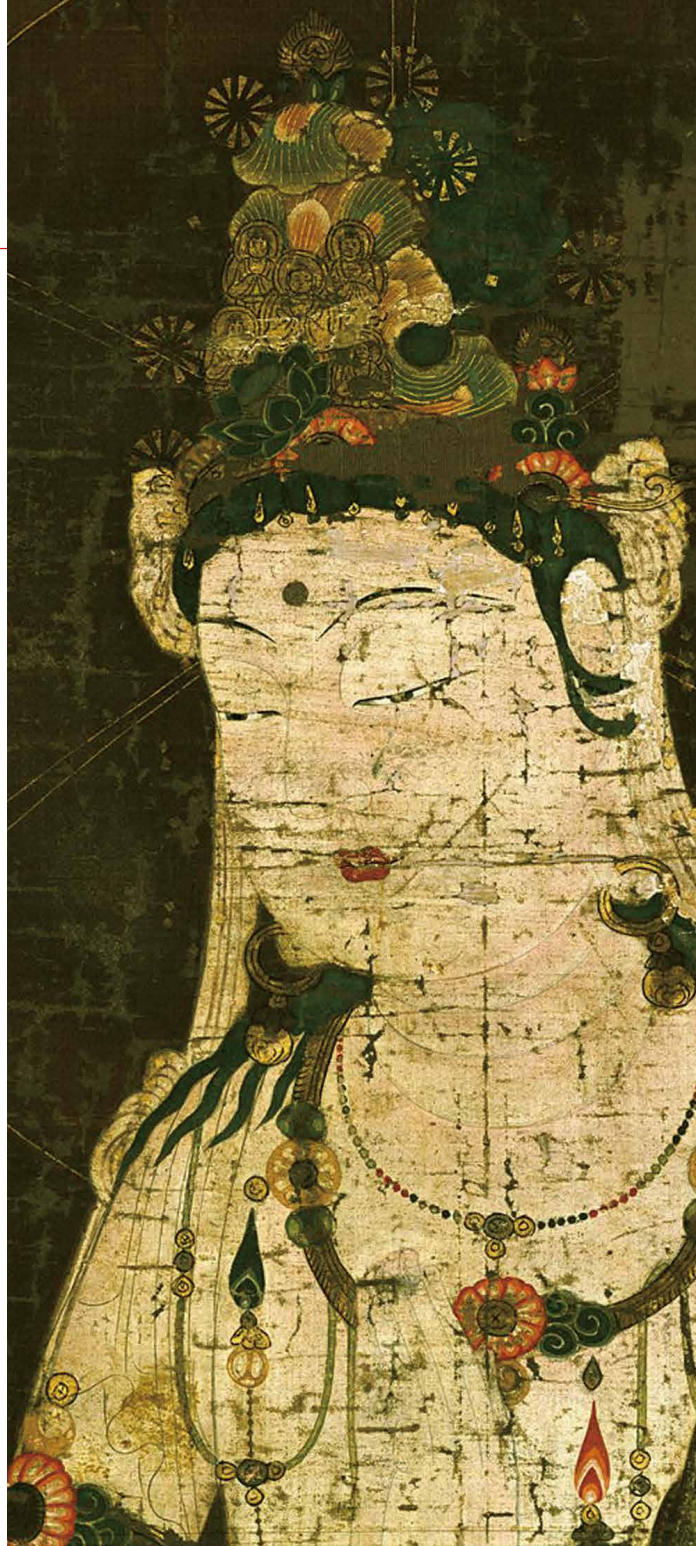
■顔に関心がある人なら、誰でも会員に！

日本顔学会のおおよその会員構成は下のグラフ(注：分野は延べです。2つの分野を登録されている方はそれぞれの分野で数えています)のようになります。既存の学会では考えられなかった異なる分野の方々が構成されていることがわかります。



美容や化粧文化学、眼鏡などを扱う分野、歯や歯並びを扱う歯学、コンピュータや機械を扱う工学、顔の魅力や表情の研究を扱う心理学、以上の4分野で約77%を占めます。さらに、形成外科、美容外科、解剖学、神経学などの医学、美術解剖学ほかの芸術学・人類学となります。

いかにさまざまな研究分野・職業の方が集まっているかが証明されているようです。従来の枠組みでは不可能だった出会いが「日本顔学会」を通して可能となっています。



国宝
普賢菩薩像
平安時代 12C



入会案内

■入会方法

日本顔学会は趣味の団体ではありません。一方で、顔に関心があり、顔学の発展に寄与したいと考えている方は誰でも会員になれます。顔の学術的な研究者である必要はありません。

入会を希望される方は、下記のいずれかの方法で、お申し込みください。(※再入会の方は、その手続きに関しまして学会事務局にお問い合わせください。)

- 1) 日本顔学会のホームページよりオンラインで入会申し込み
- 2) 入会申込書(ワードファイル)をホームページよりダウンロードして、ワープロで記入して、学会事務局へメール添付で申し込み
- 3) 入会申込書(pdfファイル)をホームページよりダウンロードして印刷し、手書きで記入して、学会事務局へ郵送またはFAXで申し込み
- 4) 学会事務局に問い合わせして入会申込書を送付してもらい、郵送またはFAXで申し込み

入会を申し込みいただくと、学会事務局より入会金、年会費納入のご案内を差し上げます。入金をもって入会とさせていただきます。

■日本顔学会ホームページ(入会案内)

<http://www.jface.jp/jp/join>



■日本顔学会事務局

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル9F
(株)毎日学術フォーラム内 日本顔学会事務局
TEL 03-6267-4550 / FAX 03-6267-4555
E-mail : macas@mynavi.jp

■会員の種別と会費

会員の種別は次のとおりです。

個人会員…本会の目的に賛同する方で、理事会の承認を得た方

準会員…本会の目的に賛同する方で、入会時に学生で理事会の承認を得た方。2年間を限度として年度替わりに自動的に個人会員に移行します(その際に入会金は必要ありません)。

賛助会員…本会の目的および事業に賛同支援する団体および機関などで、理事会の承認を得たもの

年会費・入会金は次のとおりです。

	年会費	入会金
個人会員	5,000円	1,000円
準会員	1,000円	なし
賛助会員	1口10,000円	2,000円

本学会の会計及び事業年度は毎年1月～12月で、年会費は1年前納を原則とします。年度の途中で入会される場合も、その年度分の年会費を納入して下さい。賛助会員は、日本顔学会大会参加費を、1口につき1名分会員扱いとします。

なお、学会在籍年数10年以上、かつ年齢65歳以上の方には、年会費を1,000円とする割引制度があります。ご本人からの申請に基づいて理事会の承認を得た方が対象です。

その他詳細は事務局にお問い合わせください。